提出者：生存学研究所長・大谷いづみ

2023 年度　研究所事業報告書

研究所名	生存学研究所

Ⅰ.研究成果の概要（公開項目）　※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。なお、2023 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式Ｂに記述のうえ提出してください。

人口減少・少子高齢化とグローバル化は、教育・研究に大きな変革をもたらし、本学園は「挑戦をもっと自由に（R2030）」を目指し、現代社会の多様な「生存」への対応を急務としている。この課題に正面から取り組む生存学研究所は、本学園の「未来を信じ、未来に生きる」精神に基づき、ダイバーシティとインクルージョンの実現に貢献している。

2023 年度は、人間の「障老病異」とともに生きることを追求し、障害、老い、病い、異なる身体の状態を抱える人々の「当事者」性に焦点を当て、立命館大学のプレゼンスを高める先端的な教育研究実践を行い、そのミッションを達成した。以下に、アーカイヴィング、東アジア生存学拠点、支援テクノロジー開発、研究所叢書刊行の四つの柱となる研究ヴィジョン（重点プロジェクト）を通じた活動を報告する。

1.　生存学アーカイヴィング: 2007 年以来のアーカイヴィングを継続し、記録・智恵・記憶の収蔵・解析・発信を進化させた。2023 年 4-7 月には、故・立岩教授が RARA フェローとして活動した。また、運営委員の松原洋子教授の科研費プロジェクト（基盤Ａ・「アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究」）、副所長の後藤基行准教授のプロジェクト（JST/医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史的分析とアーカイブズ構築、科研費・挑戦的研究開拓／「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PPI の実践と共に）によるアーカイヴィング事業を進め、学内外・国内外での研究成果創出を促進した。

2.　東アジア生存学拠点形成: グローバルシティズンシップに向けた主体的な研究教育実践として、東アジア生存学拠点を形成した。2023 年度には、情報化社会におけるユニバーサルアクセスの研究を中心に研究を進めた。その成果は、2023 年 10 月 27―8 日にソウルにて４年ぶりに対面で開催された障害学国際セミナー2023 で、「情報化社会におけるユニバーサルアクセス」をテーマとして研究報告した。

3.　支援テクノロジー開発: ダイバーシティ社会を実現するテクノロジーの社会実装を目指して「当事者」とともにデザインの上流から関わった。2023 年度は、①9 月に OIC で AHEAD JAPAN 全国大会を協力して開催、②障害学国際セミナーにおける移動アクセシビリティ実践、③APU での WHILL モデル F を用いた実装実験、④2024 年 3 月に成果発表シンポジウム「アクセシビリティと“？？” ―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」を開催した。副所長の美馬達哉によるプロジェクトでは、基盤Ａ「クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生」（2023-2026）が始動した。

4.　立命館生存学研究所叢書の刊行: 研究成果の社会発信を促進するために、立命館生存学研究所叢書の刊行の準備を進めた。2023 年度の日本社会学会大会では本プロジェクトのメンバー（川端美季准教授、伊東香純准教授、山口和紀（院生））を中心に、学外の報告者もふくめた充実したセッションが行われ、叢書刊行への準備となるとともに、他大学の若手研究者とのネットワーク形成の機会となった。

故立岩真也教授（元所長）関連の特別イベント: 2024 年 1 月 27 日には、故立岩真也教授を偲ぶ会や追悼集会を開催し、多大な貢献を偲んだ。

以上の通り、2023 年度の活動では、生存学研究所を新 MLA（Museum/Library/Archive）構想の一部として発展させ、R2030 における衣笠キャンパスの研究活動の中核とすることを目指し、おおむね計画通り達成することができた。また、新たな取り組みとして、研究所としてのクラウドファンディング（クラウドファンディング「「障老病異アーカイブズ・プロジェクト」― 故・立岩真也所長の遺志を未来につなぎたい」）を立ち上げ、500 万円を超える寄付をいただいた。

Ⅱ.拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2024 年 3 月 31 日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）

役割	氏名	所属	職位
研究所長	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
運営委員	伊東 香純(2023 年 10 月 1 日より)	衣笠総合研究機構	准教授
	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
	小川 さやか	先端総合学術研究科	教授
	川端 美季	衣笠総合研究機構	准教授
	姫野 友紀子	生命科学部	助教
	後藤 基行	先端総合学術研究科	准教授
	立岩 真也	先端総合学術研究科	教授
	富永 京子	産業社会学部	教授
	松原 洋子	先端総合学術研究科	教授
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
	塩見 康博	理工学部	准教授
	栗原 彬	衣笠総合研究機構	研究顧問
	小泉 義之	先端総合学術研究科	教授
	後藤 智	経営学部	准教授
	桜井 啓太	産業社会学部	准教授
	桜井 政成	政策科学部	教授
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授
	鎮目 真人	産業社会学部	教授
	千葉 雅也	先端総合学術研究科	教授
	中村 正	大学院人間科学研究科・産業社会学部	教授
	長瀬 修	衣笠総合研究機構	上席研究員
	永浜 明子	スポーツ健康科学部	准教授
	西 成彦	先端総合学術研究科	教授
	林 達雄	衣笠総合研究機構	研究顧問
	松尾 匡	経済学部	教授
	村本 邦子	人間科学研究科	教授
	望月 茂徳	映像学部	教授
	安田 裕子	総合心理学部	教授
	やまだ ようこ	OIC 総合研究機構	上席研究員
学内教員	宮脇 正晴	法学部	教授
（専任教員、研究系教員等）	岡部 周平	衣笠総合研究機構	助教
学内の若手研究者 ① 専門研究員	飯田 奈美子	衣笠総合研究機構	専門研究員
	シン ジュヒョン	衣笠総合研究機構	専門研究員

	研究員	岩田京子	衣笠総合研究機構	研究員
	初任研究員			
	② リサーチアシスタント	安田智博	衣笠総合研究機構	博士課程後期課程
	③ 大学院生	山口 和紀	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		有松 玲	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		岩崎 弘泰	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		宇津木 三徳	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		各務 勝博	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		岳 培栄	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		植木 是	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		勝又 栄政	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		岸田 典子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		北島 加奈子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		栗川 治	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		小井戸 恵子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		酒井 美和	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		佐草 智久	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		澤岡 友輝	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		篠原 史生	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		清水 一輝	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		焦 岩	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		白杉 眞	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		孫 潔	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		高木 美歩	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		高橋 みどり	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		高橋 初	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		竹村 文子	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		舘澤 謙蔵	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		谷口 俊恵	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		種村 光太郎	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		陳 可為	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		戸田 真里	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		中井 良平	先端学術総合研究科	博士課程後期課程
		長澤 奈緒子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		長島 史織	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		西田 美紀	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		坂野 久美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		兵頭 卓磨	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		藤井 梓	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		堀川 諭	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		増田 洋介	先端総合学術研究科	博士課程後期課程

		松浦　智恵美	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		松本　圭古	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		森　康博	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		ユ・ジンギョン	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		楊　雨双	社会学術研究科	博士課程後期課程
		高　雅郁	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		欧陽　珊珊	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		中原　京子	社会学研究科	博士課程前期課程
		宮内　沙也佳	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		田場　太基	先端総合学術研究科	博士課程前期課程
		宮田　祐輔	経営学研究科	博士課程前期課程
	④　日本学術振興会特別研究員（PD・RPD）	坂井めぐみ	先端総合学術研究科	日本学術振興会特別研究員 RPD
その他の学内者		北村　健太郎	先端総合学術研究科	授業担当講師
（補助研究員、非常勤講師、研究生、研修生等）		権藤 真由美	OIC 障害学生支援室	支援コーディネーター
		佐藤　量	先端総合学術研究科	非常勤講師
		藤原　信行	先端総合学術研究科	非常勤講師
		酒井　春奈	障害学生支援室	支援コーディネーター
		密田 逸郎	産業社会学部	非常勤講師
		村上　潔	先端総合学術研究科	非常勤講師
		吉野　靫	先端総合学術研究科	研究指導助手
		中村　雅也	衣笠総合研究機構	専門研究員
客員協力研究員		青木　慎太朗	大阪市立大学都市研究プラザ	特別研究員
		安部　彰	三重県立看護大学	准教授
		荒井　裕樹	二松学舎大学文学部国文学科	准教授
		有田　啓子	世界人権問題研究センター	客員研究員
		有吉　玲子	アルタンジョラー　金沢星稜大学	非常勤講師
		アンジェリーナ・チン	ポモナ大学	准教授
		石岡　亜希子	早稲田大学自動車・部品産業研究所	招聘研究員
		一宮　茂子		客員研究員
		伊東　香純(2023年9月30日まで)	中央大学	日本学術振興会特別研究員 PD
		井上　武史	特定非営利活動法人メインストリーム協会	職員
		浦田　悠	大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部	特任講師
		大久保　豪	株式会社 BMS 横浜	代表取締役

	太田　啓子	独立行政法人国立病院機構大阪医療センター附属看護学校	非常勤講師
	大貫　菜穂	京都造形芸術大学	非常勤講師
	岡本　晃明	京都新聞社	編集委員
	尾上　浩二	特定非営利活動法人 DPI 日本会議	アドバイザー
	勝井　久代	ヘルシンキ大学(フィンランド)	准教授
	葛城　貞三	特定非営利活動法人 ALS しがネット	理事長
	加藤　有希子	埼玉大学基盤教育研究センター	准教授
	角崎　洋平	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	河合　翔	立命館大学衣笠総合研究機構	客員研究員
	河口　尚子	名古屋市立大学	非常勤講師
	川口　有美子	有限会社ケアサポートモモ	代表取締役
	金　政玉	イデア・フロント株式会社	
	桐原　尚之	同志社大学	日本学術振興会特別研究員 PD
	小林　勇人	日本福祉大学社会福祉学部	准教授
	後藤　悠里	福山市立大学都市経営学部	特任講師
	権藤　真由美	立教大学	障害学生支援室
	櫻井　悟史	滋賀県立大学人間文化学部地域文化学科	准教授
	笹谷　絵里	花園大学　社会福祉学部	専任講師
	貞岡　美伸	京都光華女子大学	教授
	篠原　眞紀子	鳴門教育大学・大阪国際大学	非常勤講師
	柴垣　登	岩手大学教育学部	教授
	志水　洋人		客員研究員
	鍾　宜錚	大谷大学真宗総合研究所東京分室	PD 研究員
	末田　邦子	愛知淑徳大学	准教授
	鈴木　陽子	沖縄愛楽園交流会館	学芸員
	瀬山　紀子	明治大学	兼任講師
	孫　美幸	文教大学国際学部	准教授
	高橋　慎一	花園大学人権教育研究センター	
	高橋　涼子	金沢大学人間科学系／地域創造学類	教授
	田中　真美		ソーシャルワーカー
	谷田　朋美	毎日新聞社	記者

	鶴田　雅英	社福）東京コロニー東京都大田福祉工場	課長代理
	土肥　いつき	京都府立城陽高校	教諭
	利光　惠子	女性のための街かど相談室「ここ・からサロン」	相談員
	土橋　圭子		研究生
	中尾　麻伊香	広島大学	助教
	中倉　智徳	千葉商科大学	准教授
	永田　美江子	平安女学院大学	教授
	中村　江里	慶応義塾大学	准教授
	永山　博美		看護師
	新山　智基	神戸国際大学ブルーリ潰瘍問題支援プロジェクト（ProjectSCOBU）	幹事
	野口　友康	特定非営利活動法人予防接種被害者をささえる会	代表理事
	能勢　桂介	長野保健医療大学	非常勤講師
	萩原　三義	相生鍼灸	院長
	萩原　浩史	会福祉法人加島友愛会	支援課長
	橋本　明	愛知県立大学	教授
	橋口昌治	大谷大学	講師
	原　昌平	相談室ぱどる／ぱどる行政書士事務所	代表
	番匠　健一	同志社大学＜奄美・琉球・沖縄＞研究センター	研究員
	樋澤　吉彦	名古屋市立大学大学院人間文化研究科	教授
	平岡　久仁子	帝京平成大学	非常勤講師
	藤岡　毅	藤岡毅法律事務所	弁護士
	藤木　和子	法律事務所シブリング	代表弁護士
	藤原　良太		主事
	細谷　幸子	国際医療福祉大学成田看護学部	教授
	ホワニシャン・アストギク	ロシア・アルメニア大学人文学部世界史・地域研究学科	上級講師
	増田　英明	一般社団法人日本 ALS 協会	相談役
	町田　奈緒士	奈良女子大学・近畿大学	非常勤講師
	松枝　亜希子		客員研究員
	松岡　弘之	岡山大学	講師
	松波　めぐみ	大阪市立大学	非常勤講師

	松本　理沙	北陸学院大学人間総合学部子ども教育学科	講師
	三島　亜紀子	同志社大学	嘱託講師
	宮原　資英	JapanCenterforEvidenceBasedPractice	教授
	安田　真之	NPO 法人ゆに	障害学生支援アドバイザー
	山田　裕一	特定非営利活動法人凸凹ライフデザイン事業部	センター長
	山本　由美子	大阪府立大学人間社会システム科学研究科	准教授
	梁　陽日	同志社大学	嘱託講師
	横田　陽子		客員研究員
	吉田　幸恵	兵庫医療大学	講師
	吉村　夕里	武庫川女子大学大学院	非常勤講師
	頼尊　恒信	真宗大谷派聞稱寺	副住職
	田邉　健太郎	衣笠総合研究機構	プロジェクト研究員
	長瀬　修	衣笠総合研究機構	上席研究員（予定）
	甲斐　更紗	一橋大学　保健センター	障害学生支援チーフコーディネータ
	仲尾　謙二	先端総合学術研究科修了生/	客員研究員
	保明　綾	マンチェスター大学	講師
その他の学外者	青木　千帆子		非常勤講師
	青山　薫	神戸大学	客員研究員
	天田　城介	中央大学	教授
	有薗　真代	龍谷大学	職員
	安藤　道人	立教大学	非常勤講師/プロジェクト研究員
	市野川　容孝	東京大学	教授
	岩永　理恵	日本女子大学	教授
	田島　明子	湘南医療大学	教授
	髙阪　悌雄	名寄市立大学	客員研究員
	田中　恵美子	東京家政大学	看護師
	田中　耕一郎	北星学園大学	准教授
	土屋　葉	愛知大学	客員研究員
	天畠　大輔	中央大学	日本学術振興会特別研究員 PD
	廣野　俊輔	同志社大学	准教授
	深田　耕一郎	女子栄養大学	教授
	堀　智久	名寄市立大学	客員研究員

	三井 さよ	法政大学	教授
	矢野 亮	長野大学	
	山下 幸子	淑徳大学	教授
	渡辺 克典	徳島大学	准教授
	張 恒豪	国立台北大学社会学部	教授
	張 万洪	国立武漢大学法学院	教授
	呉 達明	香港大学 School of Professional and Continuing Education	准教授
	テレジア・デゲナー	プロテスタント・ボーフム応用科学大学	教授
	権藤 真由美	OIC 障害学生支援室	障害学生支援室
	芝田 純也	新潟福祉大学	教授
	安 孝淑	先端総合学術研究科修了生	2018 年度学位取得
	櫻田 武	成蹊大学理工学部	准教授
研究所構成員　　計 203 名　（うち学内の若手研究者 計　64 名）			

Ⅲ.研究業績（公開項目）　※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。
本欄には、「Ⅱ.拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2024 年 3 月 31 日時点) また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1.著書

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	小川さやか	「生活を知る」	単著	2023 年 5 月	『歩くようなはやさで生きる人のためのリベラルアーツ』, NPO 法人シブヤ大学		pp.65-87
2	小川さやか	「時間を与え合う―商業経済と人間経済の連環を築く「負債」をめぐって」	単著	2023 年 6 月	『負債と信用の人類学―人間経済の現在』, 以文社		pp.87-122
3	小川さやか	「手放すことで自己を打ち立てる―タンザニアのインフォーマル経済における所有・贈与・人格」	単著	2023 年 6 月	『所有とは何か―ヒト・社会・資本主義の起源』, 中央公論新社		pp.85-142
4	小川さやか	「「SF」と「人類学」を交差させ、多様な世界の在り方をプロトタイプする」	単著	2023 年 7 月	『未来の「奇縁」はヴァースを超えて――「出会い」と「コラボレーション」の未来をSFプロトタイピング』, プレジデント社		pp.104-109
5	小川さやか	「第 6 章 アフリカ タンザニア連合共和国」	共著	2023 年 11 月	『世界のクリスマス百科事典』,丸善出版	樺山紘一・中牧弘允編	pp.252-255
6	小川さやか	「文化人類学者と「偶然」を遊ぶ『ハイソサエティ』毎日でも持ち運べる「競り」ゲーム」	共著	2023 年 11 月	『ボードゲームデシャカイガカワル『ボードゲームで社会が変わる』遊戯するケアへ』,河出書房新社	與那覇潤,小野卓也,	pp.95-110
7	小川さやか	「ただでは起きないために、思いっきり転べ」	共著	2023 年 12 月	『青春ジャック 止められるか、俺たちを 2』, 若松プロダクション	大友麻子編	pp.38-39

8	小川さやか	「レクチャー1 失敗したらトンズラすればいい―その日暮らしの屋台学」	共著	2023 年 12 月	『日本のまちで屋台が踊る』, 屋台本出版	中村睦美・今村謙人・又吉重太編	pp.114-137
9	美馬達哉	わかりやすい「リスク」に隠された落とし穴」(インタビュー)『天才たちのインテリジェンス』	共著	2024 年 3 月	ポプラ社	佐藤優編	PP.167～185
10	美馬達哉	過剰なのは医療ではなくセキュリティ？――生政治とは――『「過剰医療」の構造』	共著	2024 年 2 月	ビジネス社	藤井聡編	PP.62～65
11	後藤基行	共生社会のための精神医学	共訳	2024 年 2 月	中央法規出版	竹島　正=監訳, 神庭重信, 翻訳協力	第 1 章 精神疾患とその治療の歴史
12	富永　京子	コミュニティの社会学	共著	2023 年 12 月	有斐閣	祐成保志・武田俊輔・渡邊隼・植田今日子・小山弘美・富永京子・藤田研二郎	第三章 「職」「住」をシェアする――アクティビストたちの自治コミュニティを中心に
13	松原　洋子	ジェンダー事典	分担執筆	2024 年 1 月	丸善出版	ジェンダー事典編集委員会	pp.52-53
14	桜井　政成	ボランティア・マネジメントを考える: 上手に連携する方法としての″チョイス・ブレンド″	共著	2023 年 10 月	全国公益法人協会(1078)		pp.26-32
15	サトウタツヤ	人物で読む心理学事典	監修	2024 年 2 月	朝倉書店	長岡　千賀・横光健吾・和田　有史(編)	全 424 頁
16	鎮目　真人	福祉と協働	分担執筆	2023 年 9 月	ミネルヴァ書房	金子勇、吉原直樹代表編者、三重野卓編著	pp.193-229
17	鎮目　真人	福祉社会学文献ガイド	分担執筆	2023 年 11 月	学文社	福祉社会学会編集	pp.304-312
18	千葉　雅也	エレクトリック	単著	2023 年 5 月	新潮社		
19	西成彦	第五章:ポーランド人であること、になること、もさせられること――ニーチェからゴンブローヴィチへ	共著	2023 年 9 月	成文社、『ロシア・東欧の抵抗精神／抑圧・弾圧の中での言葉と文化』	石川達夫編、貝澤哉・奈倉有里・西成彦・前田和泉著	PP.117~34
20	松尾 匡	定点観測 新型コロナウイルスと私たちの社会:2022 年後半	分担執筆	2023/04/01	論創社	森達也ほか	経済学の章「『コロナショック・ドクトリン』後のコロナショック・ドクトリン」
21	村本　邦子	戦争と文化的トラウマ―日本における第二次瀬愛大戦の長期的影響	分担執筆	2023/04/25	日本評論社		第 16 章　日中戦争によるトラウマの世代間連鎖と修復の試み 219-231 頁
22	村本　邦子	平和学辞典	共著	2023/06/21	丸善出版		9-20 心理学による紛争アプローチ、9-21 トラウマと癒し
23	宮脇　正晴	条解著作権法	共著	2023/06/05	弘文堂	小泉直樹、茶園成樹、蘆立順美、井関涼子、上野達弘、愛知靖之、奥邨弘司、小島立、宮脇正晴、横山久芳	101-118 頁、885-902 頁、924-930 頁、941-1035 頁
24	シン・ジュヒョン	『シリアスゲームの社会的受容を問う－韓	単著	2024 年 2 月	福村出版		pp.240

		国の事例にみる「ゲーム」と「教育」の社会文化的研究』					
25	岩田　京子	景观人类学:身体・表象・物质性	分担執筆	2023年7月	华南理工大学出版社	河合洋尚编・王慧、郭谦译	沟通所创造的场所性:从京都市的事例出发
26	Mayumi KOMAZAWA	’Récit de soi et expression de la réalité du point de vue du sujet qui vit avec des troubles mentaux’	単著	2024年1月	″Histoires de vie en formation et clinique narrative au Japon Émergence, déploiement, mutation″ L’Harmattan,	Makoto Suemoto, Masayoshi Morioka, et Hervé Breton	PP.211～226
27	松枝亜希子	「リプライ　野口友康さんの書評に応えて」	共著	2023年12月	明石書店、『障害学研究』19	障害学研究編集委員会	PP.305～311
28	松枝亜希子	「書評／野口友康著『「犠牲のシステム」としての予防接種施策――日本における予防接種・ワクチン禍の歴史的変遷』」	共著	2023年12月	明石書店、『障害学研究』19	障害学研究編集委員会	PP.312～321
29	天畠大輔	「弱さを見せあい　チームでいどむ」	共著	2023年8月	岩崎書店『お仕事ノンフィクション　自分がえらんだはたらき方5　チームワークではたらく』	お仕事ノンフィクション編集部・編	PP.33～64
30	天畠大輔	「第14章『あ、か、さ、た、な』で地域で暮らす」	共著	2024年3月	障害学会『障害学の展開　理論・経験・政治』明石書店	障害学会20周年記念事業実行委員会編	PP.248～265
31	臼井久実子	障害のある人の欠格条項ってなんだろう？Q＆A-資格・免許をとって働き、遊ぶには	編著	2023年4月	解放出版社	佐藤久夫,瀬戸山陽子,瀬山紀子,長岡健太郎,藤岡毅,ほか筆者多数	計51頁
32	臼井久実子	聴覚障害があること・女性であること	単著	2023年10月	現代書館, 障害があり女性であること-生活史からみる生きづらさ	(編著者)土屋葉,(執筆者)伊藤葉子,河口尚子,小森淳子,後藤悠里,瀬山紀子,時岡新,.渡辺克典	P98-102
33	Miyahara, M.	Physical disabilities	共著	2023年10月	Elsevier, Reference Module in Neuroscience and Biobehavioral Psychology	Piek, J., Rogoli, D.	https://doi.org/10.1016/B978-0-323-96023-6.00045-2
34	瀬山紀子	障害のある人の欠格条項ってなんだろう？Q＆A-資格・免許をとって働き、遊ぶには	共著	2023年4月	解放出版社	佐藤久夫,瀬戸山陽子,瀬山紀子,長岡健太郎,藤岡毅,ほか筆者多数	PP.65～69
35	瀬山紀子	障害があり女性であること　―生活史からみる生きづらさ	共著	2023年9月	現代書館	(編著者)土屋葉,(執筆者)伊藤葉子,河口尚子,小森淳子,後藤悠里,瀬山紀子,時岡新,.渡辺克典	PP.270～290
36	藤岡　毅	障害のある人の欠格条項ってなんだろう?	共著	2023年4月	解放出版社	臼井久実子	PP.104～112

2.論文

No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無

1	大谷いづみ，川端美季	講演 1「「障害のある教員」の職場復帰のプロセスと課題」	共著	2023 年 9 月	立命館生存学研究 7		PP.89～109	有
2	大谷いづみ，川端美季	特集趣旨	共著	2023 年 9 月	立命館生存学研究 7		PP.85～88	有
3	大谷いづみ	立岩真也さんと生存学のこと	単著	2024 年 2 月	『現代思想』総特集 立岩真也 1960-2023 52(3)		PP.223～228	招待
4	伊東香純	アフリカの精神障害者の社会運動を詳しく調べることの意義	単著	2024 年 2 月	現代思想 52(3)		pp. 322-327	
5	小川さやか	「「なぜ人は人を助けるのか」の人類学 無条件の条件 第 10 回 他者と出会うことの醍醐味」	単著	2023 年 4 月	『一冊の本』，朝日新聞出版，vol.28 no.4		pp.42-50	無
6	小川さやか	「賭けと待ち―タンザニア移民たちの夢食う人生」	単著	2023 年 4 月	『みすず』，みすず書房，第 65 巻第 3 号		pp.2-11	無
7	小川さやか	「社会性の視座のもと、資本主義の未来を考える」	共著	2023 年 4 月	『月間経団連』，一般社団法人日本経済団体連合会，第 71 巻第 4 号		pp.5-20	無
8	小川さやか,	「リファービッシュ品を売って儲けよう」	単著	2023 年 11 月	『月刊 みんぱく』，国立民族学博物館，第 47 巻第 11 号		pp.6-7	無
9	小川さやか	「精読と身体 AI には教えられない知」	単著	2024 年 2 月	『中央公論』，中央公論新社，第 138 巻第 3 号		pp.80-89	無
10	小川さやか	「立岩文体の感染力――生きて在る運動の基盤として」	単著	2024 年 2 月	『現代思想』，青土社,2024vol.52-3		pp.137-143	無
11	川端美季	関東大震災と植民地統治下の公衆浴場	単著	2024 年 2 月	植民地文化学会、植民地文化研究、22 号	なし	13 - 20 頁	無
12	Yuttamol Muangkram, Yukiko Himeno, Akira Amano	Clarifying the composition of the ATP consumption factors required for maintaining ion homeostasis in mouse rod photoreceptors	共著	2023 年 8 月	Scientific Reports			
13	美馬達哉	トピックス「身体完全性違和（Body Integrity Dysphoria: BID）	単著	2023 年 11 月	先端医学社，精神科 Resident，4 巻 4 号秋		PP.62～65	無
14	美馬達哉	ケアから労働をみる――解釈労働論のためのメモ	単著	2024 年 2 月	青土社，現代思想，52 巻 3 号		PP.206～212	無
15	美馬達哉	COVID-19 と境界	単著	2023 年 8 月	年報社会学論集 36 号		3-11 頁	有
16	美馬達哉	セキュリティ技術が支配する社会―生活に浸透する“生政治”とは―	単著	2023 年 11 月	表現者クライテリオン 111 号		58-62 頁	
17	Mima, T.	Tackling social anxiety with targeted brain stimulation: investigating the effects of transcranial static magnetic field stimulation on self-	共著	2024 年 3 月	Frontiers in behavioral neuroscience , 18: 1373564	*Tomita N, Katayama H, Kurihara Y, Takahashi T, Shibata S, Osu R, Kumano H		有

		focused attention						
18	Mima, T.	Case report: An N-of-1 study using amplitude modulated transcranial alternating current stimulation between Broca's area and the right homotopic area to improve post-stroke aphasia with increased inter-regional synchrony	共著	2024年2月	Frontiers in behavioral neuroscience , 18: 1297683	Omae E, Shima A, Tanaka K, Yamada M, Cao Y, Nakamura T, Hoshiai H, Chiba Y, Irisawa H, Mizushima T, *Koganemaru S		有
19	Mima, T.	Static magnetic field stimulation enhances shunting inhibition via a SLC26 family Cl− channel, inducing intrinsic plasticity.	共著	28 February 2024	Journal of Neuroscience 44(9)	Sinha, A.*, Shibata, S.*, Takamatsu, Y.*, Akita,, T., Fukuda, A., Mima, T.		有
20	Mima, T.	Swallow-related Brain Activity in Post-total Laryngectomy Patients: A Case Series Study.	共著	2023 Sep 1	Progress in Rehabilitation Medicine 8	Ogawa, A., Koganemaru, S., Takahashi, T., Takemura, Y., Irisawa, H., Goto, K., Matsuhashi, M., Mima, T., Mizushima, T., Kansaku, K.		有
21	Mima, T.	Effect of transcranial static magnetic stimulation over unilateral or bilateral motor association cortex on performance of simple and choice reaction time tasks.	共著	04 December 2023	Frontiers in Human Neuroscience, 17	Matsumoto, T., Watanabe, T. Ito, K., Horinouchi, T., Shibata, S., Kurumadani, H., Sunagawa, T., Mima, T., Kirimoto, H.	1-10.	有
22	Mima, T.	N-of-1 Trial of Electrical Sensory Stimulation Therapy on the Tibial Innervated Area during Gait in a Case of Post-stroke Sensory Disturbance.	共著	June 22, 2023	Progress in Rehabilitation Medicine 8	Yamaoka, T., Takagi, Y., Shimomura, R., Murata, Y., Shimotake, K., Itoh, A., Mima, T., & Koganemaru, S.		有
23	Mima, T.	Gait-combined closed-loop brain stimulation can improve walking dynamics in	共著	November 2023	J Neurol Neurosurg Psychiatry 94(11)	Nojima I, Horiba M, Sahashi K, Koganemaru S, Murakami S,	938-944.	有

		Parkinsonian gait disturbances: a randomised-control trial.				Aoyama K, Matsukawa N, Ono Y, Mima T, Ueki Y,		
24	Mima, T.	Priming effects of transcutaneous vagus nerve stimulation on the neuromodulation induced by transcranial static magnetic field stimulation in human motor cortex.	共著	October 2023	Clinical Neurophysiology 154	Shibata, S., Takahashi, H., Miida, Y., Mima, T., Onishi, H.	194-197.	有
25	Mima, T.	Non-invasive Brain Stimulation in Post-stroke Dysphagia Rehabilitation: A Narrative Review of Meta-analyses in 2022	共著	May 25, 2023	Progress in Rehabilitation Medicine 8	Shibata, S., Koganemaru, S., Mima, T.		有
26	Mima, T.	Low-frequency repetitive transcranial magnetic stimulation can alleviate spasticity and induce functional recovery in patients with severe chronic stroke: A prospective, non-controlled, pilot study.	共著	April 2023	Heliyon 9	Yukawa, Y., Shibata,S., Koganemaru, S., Minakuchi,M., Shimomura, R., Nakamura K., Mima, T.		有
27	Yukiko,H	Clarifying the composition of the ATP consumption factors required for maintaining ion homeostasis in mouse rod photoreceptors	共著	2023/08/29	Scientific Reports, Springer Nature	Yuttamol Muangkram, Yukiko Himeno, Akira Amano		有
28	Yukiko,H	Theoretical prediction of early afterdepolarization-evoked triggered activity formation initiating ventricular reentrant arrhythmias	共著	2023/07/15	Comput Methods Programs Biomed, Elsevier B.V.	Kunichika Tsumoto, Takao Shimamoto, Yuma Aoji, Yukiko Himeno, Yuhichi Kuda, Mamoru Tanida, Akira Amano, Yasutaka Kurata		有
29	後藤 基行	国立肥前療養所における開放医療と患者：『患者名簿』・『退院願	単著	2023 年	保健医療社会学論集 34(1)		PP.34-44	招待

		綴』からみる入退院パターンの分析ー						
30	富永京子	調査研究と協働／共同の「狭間」、活動家と研究者の「狭間」――マスメディアで発信する社会運動研究者の抱える「原罪」と「贖罪」の過程	単著	2024/03/31	文化人類学 88(4)			有
31	富永京子	1970-80 年代の雑誌を通じた「性の解放」と「個の解放」:『ビックリハウス』における女性の身体・キャリア言説を通じて	単著	2023/10/01	社会学評論 72(2)			有
32	富永京子	Protest tourism as gendered experience: constraints, feelings and gender roles of female activists	単著	2023/06/15	Frontiers in Sustainable Tourism 2			招待
33	松原 洋子	母体保護法下で優生思想に向き合う	単著	2023/04/15	民医連医療(607)		PP.18-20	
34	松原 洋子	書評:白井千晶編著『アジアの出産とテクノロジー――リプロダクションの最前線』(勉誠出版、2022 年)	単著	2023/07/31	日本保健医療社会学会 34(1)		PP.128-129	招待
35	松原 洋子	優生思想に抗うために	単著	2023/12/01	住民と自治(728)		PP.38-40	招待
36	松原 洋子	『なぜ理系に女性が少ないのか』の書評	単著	2024/01/12	書評のひろば			
37	松原 洋子	強制不妊手術関連公文書のアーカイブ構築に向けて	共著	2024/01/28	科学史研究 62(308)		PP.14-421	招待
38	後藤 智	デザイン思考教育の課題と今後の検討	共著	2024/03/31	デザイン科学研究 3(1)	林留里・後藤智	PP.155-166	
39	後藤 智	デザイン研究における生理学的アプローチの動向と課題	共著	2024/03/31	デザイン科学研究 3(1)	八重樫文・永盛祐介・後藤智・安藤拓生・張雪瑩・三好春陽	PP.95-116	
40	桜井 啓太	ヤングケアラー問題をめぐる視座 : 貧困と労働の視点の欠如ー	単著	2023/10	生活経済政策(321)		PP.18-23	
41	桜井 政成	「愉しみの読書」を中学・高校で推進する上での矛盾と課題 : 朝の読書および青少年読書	単著	2024/02/29	政策科学 31(2)		PP. 85-93	有

		感想文コンクールの分析と考察						
42	桜井 政成	SNS で本棚を見せる人たち：ネット空間での新たな読書交流携帯の特徴と意図の分析	共著	2024/03/15	読書科学 65(1)	◎桜井政成・入江拓実	PP. 1-15	有
43	サトウタツヤ	対立から相補性へ，多様性から複線性へ―産学官連携に質的研究をどのように役立てるか	単著	2024 年 3 月	日本質的心理学会質的心理学研究 (23)		PP.47～55	有
44	サトウタツヤ	13 年間 202 回のコスプレ経験のプロセス 写真を用いた検討(2009-2021)	共著	2024 年 3 月	立命館大学ものづくり質的研究センター質的研究と社会実装 1(1)	福山未智	PP.48～65	有
45	サトウタツヤ	コロナ後の文化心理学ネットワーク、再始動帰って来た__対人援助学縦横無尽（1）	単著	2024 年 3 月	対人援助学会対人援助学マガジン (56)		PP.64～81	無
46	鎮目 真人	(書評)金成垣著『韓国福祉国家の挑戦』	単著	2023/05/31	福祉社会学研究 20		PP.242-247	
47	中村正	臨床社会学の方法(43) 鏡の背面-他者をとおした欲望の実現	単著	2023 年 12 月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(3)		PP.25～35	
48	中村正	性暴力・ジェンダー暴力連続体と治療的司法	共著	2023 年 10 月	法と心理学会、法と心理、23(1)	中村正、安田裕子、藤澤陽子、宮﨑浩一、山口修平、後藤弘子		
49	中村正	臨床社会学の方法(42) 『知らないこと』はつくられている―無知の姿勢・無知の知を超える『無知学』へ	単著	2023 年 9 月	対人援助学会、対人援助学マガジン、14(2)		PP.25～34	
50	中村正	臨床社会学の方法(41) DV 防止システムの構築-地域における暴力抑止の体系化	単著	2023 年 6 月	対人援助学会、対人援助学会マガジン、14 巻 21 号		PP.21～31	無
51	永浜 明子	運動遊びから運動、スポーツへの移行と発達障がい	単著	2023/11/10	発達 176		PP.113-118	招待
52	永浜 明子	個別指導計画を契機とした保育環境の変容 1) A の保育者と保護者の語りから	共著	2023/12/19	対人援助学会 14		PP.85-95	有
53	松尾 匡	利子率を組み入れたハロッド＝置塩投資関数による景気循環モデル―流動性のわなを伴う非線形的利子率決定の場合―	単著	2024 年 3 月	立命館経済学 72(4)			
54	村本 邦子	周辺からの記憶 39 2022 年度シンポジウム	単著	2023/06/15	対人援助学マガジン 14(1)		PP.99-121	
55	村本 邦子	書評 河野貴代美著『1980 年、女たちは「自分」を語りはじめる』	単著	2023/07/15	図書新聞(3599)		PP.3	招待

56	村本 邦子	書評『狂気な倫理ー「愚か」で「不可解」で「無価値」とされる生の肯定』	単著	2023/12/01	社会と倫理 38		PP.150-150	招待
57	村本 邦子	歴史のトラウマと平和教育	単著	2023/12/11	女も男も 142(秋・冬)		PP.77-82	
58	村本 邦子	周辺からの記憶 41 2021 年度多賀城・宮古	単著	2023/12/15	対人援助学マガジン 14(3)		PP.104-125	
59	村本 邦子	周辺からの記憶 42 2021 年福島フィールドワーク	単著	2024/03/15	対人援助学マガジン 14(4)		PP.127-161	
60	村本 邦子	集合的トラウマと平和ミュージアムの役割 ～「ピースおおさか」設立の歴史と変移を辿って～	共著	2024/03/25	立命館平和研究 14(25)		PP.67-86	
61	宮脇 正晴	知的財産法判例の動き	単著	2023/04	令和 4 年度 重要判例解説		PP.233-238	招待
62	宮脇 正晴	検索連動型広告における商標の使用	単著	2023/04	新・判例解説 WATCH(32)		PP.277-280	招待
63	宮脇 正晴	音楽教室における演奏の主体	単著	2023/05	法学セミナー(820)		PP.122-123	招待
64	宮脇 正晴	知的財産権の侵害者に対する廃棄等請求	単著	2023/09	特許研究(76)		PP.6-14	招待
65	宮脇 正晴	ゲーム資料の検索結果表示画面におけるパッケージ画像の提示 ー著作権法 47 条の 5 第 1 項の解釈例	単著	2023/09	パテント 76(10)		PP.6-14	有
66	宮脇 正晴	商品形態と機能性	単著	2023/10	パテント 76(12)		PP.79-87	
67	宮脇 正晴	特許発明の構成要素であるサーバからのデータ送信が日本国外からなされる場合の特許権侵害の成否[知財高大判令和 5・5・26 裁判所ウェブサイト]	単著	2023/11	法学セミナー(826)		PP.116-117	
68	宮脇 正晴	書評：今村哲也『地理的表示保護制度の生成と展開』	単著	2023/11	日本国際経済法学会年報(32)		PP.210-215	
69	宮脇 正晴	日本商標法の不使用取消制度における商標的使用の位置づけ	単著	2024/03	一般財団法人知的財産教育研究財団『令和 5 年度知的財産に関する日中共同研究報告書』		PP.164-172	
70	シン ジュヒョン	「「女性ゲーマーは銃を撃つことができるのか？」この質問はなぜ必要なのか」	単著	2023 年 8 月	『Game Generation』, Game Generation, 13, オンライン			無
71	栗川治	中途視覚障害教員初の『復職』を可能にしたもの――1970 年代、小学校教員・一谷孝の職場復帰闘争と養護学校での『復職』の意味	単著	2023 年 12 月	障害学研究 19		PP.143-168	
72	柴垣 登	「戦後肢体不自由教育における実践課題の変遷 機関誌『肢体不自由教育』の特集テーマの分析による考察」	単著	2024 年 3 月	『岩手大学教育学部研究年報』第 83 巻		PP.83～100	無

73	柴垣　登	「特別支援教育の現状と課題」についての考察　ー都道府県ごとの特別支援教育の状況の違いから」	単著	2024 年 3 月	『岩手大学教育学部研究年報』第 83 巻		PP.101～120	無
74	柴垣　登	「公教育経営改革とインクルーシブ教育」	単著	2024 年 3 月	『岩手大学大学院教育学研究科研究年報』第 8 巻		PP.133～146	無
75	駒澤真由美	「『リカバリー』概念を再考する――中井久夫の寛解過程論と治療文化論から」	単著	2023 年 7 月	浅香山病院,『浅香山病院医学雑誌』第 2 号	太田勝康・角俊幸・井上幸紀・山川みやえ・篠崎和弘・高橋隼・正木慶大ほか	PP.30～39	無し
76	駒澤真由美	「なぜ「リカバリー」に拘ったのか」	単著	2023 年 5 月	金剛出版,『臨床心理学』第 23 巻 第 3 号		P.356	無し
77	駒澤真由美	書評:大塚公一郎 著『病いのレジリアンス――ナラティヴにおける虚偽主題』	単著	2024 年 1 月	金剛出版,『臨床心理学』第 24 巻 第 1 号		P.121	無し
78	天畠大輔	「お前そんなことで悩んでんじゃねえよ」	共著	2024 年 2 月	青土社『現代思想　総特集＝立岩真也-1960-2023-』2024 年 3 月臨時増刊号		PP.165～170	無
79	藤原良太	分離教育システムに抗する実践と知的障害の社会モデル――普通学級就学運動における「同一空間・同一教材」「『共育』に注目して	単著	2023 年 12 月	『障害学研究』第 19 号		PP.62～87	有
80	野口友康	『「犠牲のシステム」としての予防接種施策――日本における予防接種・ワクチン接種禍の歴史的変遷』松枝亜希子さんの書評へのリプライ	単著	2023 年 12 月	障害学研究 19		PP.322-328	無し
81	野口友康	書評／松枝亜希子著『一九六〇年代のくすり――保健薬、アンプル剤・ドリンク剤、トランキライザー	単著	2023 年 12 月	障害学研究 19		PP. .298-304	無し
82	臼井久実子	欠格条項・入口での排除に抗する	単著	2024 年 3 月	明石書店,障害学研究 20 障害学の展開-理論・経験・政治	(出版事業ワーキンググループ)岡部耕典,川島聡,高森明,山下幸子	P360-377	
83	Miyahara, M.	Experience of activity and participation of individuals with developmental coordination disorder/dyspraxia and their surrounding people: a qualitative systematic review.	共著	2023 年 7 月	Dyslexia Association of Singapore, Asia Pacific Journal of Developmental Differences, 19(2).	Pocock, T., Moebs, I., & Konno, R.	PP.377-402	有
84	村上潔	「【連載】ジン[Zine]、アーカイヴィング、アクティヴィズム――その連動する展開がひらく地平(全 4 回)第 1 回:収集・保存・公開における本質的課題」	単著	2023 年 5 月	Web マガジン『AMeeT』(一般財団法人 NISSHA 財団), 2023 年 5 月 10 日, (https://www.ameet.jp/digital-archives/4628/)			無
85	村上潔	「【連載】ジン[Zine]、アーカイヴィング、アクティヴィズム――その連動する展開がひらく地平(全 4 回)第 2 回:	単著	2023 年 7 月	Web マガジン『AMeeT』(一般財団法人 NISSHA 財団), 2023 年 7 月 1 日, (https://www.ameet.jp/digital-archives/4719/)			無

		〈56a インフォショップ〉の DIY アーカイヴィング実践(前編)」						
86	村上潔	「【連載】ジン[Zine]、アーカイヴィング、アクティヴィズム――その連動する展開がひらく地平(全4回)第3回:〈56a インフォショップ〉の DIY アーカイヴィング実践(後編)」	単著	2023年8月				無
87	村上潔	「【連載】ジン[Zine]、アーカイヴィング、アクティヴィズム――その連動する展開がひらく地平(全4回)第4回:図書館員・アーキヴィストたちが力を合わせて積み上げてきた場と仕組み」	単著	2023年11月				無
88	村上潔	「立岩真也のフェミニズム批判は何に起因していたのか――初発の段階からの小考」	単著	2024年2月		261-267		無
89	Suguru Okubo	Citation Network Analysis of Nurse Staffing Research from the Past Two Decades: 2000-2022	共著(筆頭著者ではない)	2023年11月	Healthcare 11(23) 3050	Noriko Morioka, Masanao Ochi, Mutsuko Moriwaki, Kenshi Hayashida, Ichiro Sakata, Masayo Kashiwagi		有
90	横田陽子	感染症サーベイランス小史・1 母親たちの運動が流行予測への道を拓いた	単著	2023年9月	医学書院, 公衆衛生, 87 巻 9 号		pp.941-944	無
91	横田陽子	感染症サーベイランス小史・2 予防接種事故被害者の運動がサーベイランス体制整備を後押しした	単著	2023年10月	医学書院, 公衆衛生, 87 巻 10 号		pp.1049-1052	無
92	横田陽子	感染症サーベイランス小史・3 挫折した専門家たちが進めた検査情報のシステム化	単著	2023年11月	医学書院, 公衆衛生, 87 巻 11 号		pp.1152-1155	無
93	横田陽子	「新型インフルエンザ(A/H1N1)対策総括会議(2010年)――経緯、提言、残されたもの――」	単著	2024年3月	日本科学史学会生物学史分科会, 生物学史研究, 103 号		pp.50-55	無
94	瀬山紀子	″食べる″を考える：食事介助という経験を通して	単著	2023年10月	新社会学研究 : Japan sociologist (8)		PP.56～65	無
95	瀬山紀子	非正規女性を支え手とする福祉現場の実像：公務非正規女性全国ネットワークの調査から	単著	2023年5月	福祉社会学研究 = Journal of welfare sociology / 福祉社会学研究編集委員会 編 (20)		PP.125～143	無
96	瀬山紀子	非正規が支える公共サービス：コロナ禍のなかではじめた公務非正規女性全国ネットワークの活動から	単著	2023年7月	東海社会学会年報 = The annual review of the Tokai Sociological Society / 東海社会学会年報編集委員会 編 (15)		PP.19～23	無
97	藤岡 毅	「家族の単独介護時間をゼロにせよ」と命じた松戸市 ALS 介護保障訴訟	単著	2024年2月	旬報社,賃金と社会保障,1844		PP.4～21	無

3.研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	大谷いづみ，川端美季	『PLAN 75』上映会&トークベント報告	2023 年 9 月	AHEAD JAPAN CONFERENCE 2023	
2	大谷いづみ	「生命倫理」から見える現代社会―学問と現場、理論と実践を往還する	2023 年 9 月	全国学生社会科学系研究会連絡会議 夏季ゼミ「情勢講演会」	
3	大谷いづみ	コミュニケーションペーパーに託された声を聴く（開会の挨拶）	2023 年 9 月	福田暁子氏公開研究会（立命館先端研院生プロジェクト「MMD 研究会」）	
4	Kasumi Ito	Discussion: From perspective of Research on Global Social Movements	2024 年 2 月 21 日	Film screening of ″Breaking the Chains“	
5	伊東香純	社会運動と研究の架け橋としてのアーカイブ ――英国 Disability Archive の事例から	2023 年 10 月 8 日	第 96 回日本社会学会大会 社会学教育委員会企画テーマセッション 「質的データのアーカイブ」口頭発表	
6	伊東香純	アフリカにおける精神障害者のグローバルな社会運動のはじまり	2023 年 9 月 16 日	障害学会第 20 回大会ポスター発表	
7	伊東香純	当事者であることの重要性――東アフリカにおける精神障害者の社会運動の組織から	2023 年 6 月 11 日	日本 NPO 学会第 25 回研究大会口頭発表	
8	伊東香純	精神障害者のトランスナショナルな社会運動――ウガンダとデンマークの組織に注目して	2023 年 5 月 27 日	第 49 回日本保健医療社会学会大会 (5-6) 口頭発表	
9	大谷いづみ，川端美季	Report on the PLAN 75screening and discussion event	2023 年 10 月	障害学国際セミナー2023	
10	大谷いづみ	脆弱性と社会的排除を生きること：ベケット先生を迎えて（開会の挨拶）	2023 年 11 月	立命館大学生存学研究所 アンハラッド・ベケット先生招聘研究会	
11	大谷いづみ	若き日の石川憲彦先生との出会い（開会の挨拶）	2023 年 12 月	立命館先端研院生プロジェクト「少数者と教育」研究会	
12	大谷いづみ，川端美季	『PLAN 75』上映会&トークイベントとアクセシビリティ：「障害」支援と教学の未来を拓く教職協働の試み	2024 年 2 月	立命館大学教育開発 DX/ピッチ（最終報告会 D.I.G.）	
13	大谷いづみ，川端美季ほか	立命館アジア太平洋大学・別府における車いすの移動アクセシビリティ	2024 年 2 月 29 日	教育開発 DX/ピッチ（D.I.G）、大阪茨木キャンパス	
14	大谷いづみ	笑顔に隠れた沈黙・愚痴としてのみ語られること（閉会の挨拶）	2024 年 3 月	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える 立命館	

				大学生存学研究所アクセシビリティ・プロジェクト	
15	大谷いづみ	「生命倫理」から見える現代社会――学問と現場、理論と実践を往還する	2023 年 9 月 21 日	全国学生社会科学系研究会夏季ゼミ情勢講演会	
16	KAWABATA Miki	Bathing and National Morality in Modern Japan	2023 年 10 月	Mid-Atlantic Regional Association for Asian Studies 49th Annual Conference	
17	OTANI Izumi	Report on the PLAN 75screening and discussion event	2023 年 10 月	障害学国際セミナー2023（East Asia Disability Studies Forum 2023）	KAWABATA Miki
18	KAWABATA Miki	The history of Chiyoko Ino, who organized the "Society To Take Back the Mobility of Persons with Disabilities	2023 年 10 月	障害学国際セミナー2023（East Asia Disability Studies Forum 2023）	IWATA Kyoko
19	川端美季	2023 年度のアクセシビリティ・プロジェクトのまとめ	2024 年 3 月 20 日	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」	
20	仲尾 謙二	アクセシビリティと法律、あるいは鉄道やバスが民営であること	2024 年 3 月 20 日	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」	
21	欧陽珊珊	レインボーパレードのアクセシビリティ――東京・大阪・九州	2024 年 3 月 20 日	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」	
22	シン・ジュヒョン	ゲームアクセシビリティに関する探索的研究	2024 年 3 月 20 日	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」	
23	甲斐更紗	ろう・難聴者の情報・コミュニケーション面のアクセシビリティを考える	2024 年 3 月 20 日	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」	
24	田中秀典	手動車いすの購入及び生活実践の報告	2024 年 3 月 20 日	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」	
25	安田智博	日韓ユニバーサルツーリズムにおける移動困難者とサポーターによる実践報告	2024 年 3 月 20 日	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」	高雅郁・ユ ジンギョン・大谷いづみ
26	坂井めぐみ	日韓車椅子移動に関する実践報告――飛行機・ホテ	2024 年 3 月 20 日	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会	田中結子・窪崎泰紀・橋口昌治

		ル・地下鉄		デザイン、そして実践から考える―」	
27	安田智博，ユジンギョン，高雅郁，大谷いづみ	日韓ユニバーサルツーリズムにおける移動困難者とサポーターによる実践報告			
28	Sayaka Ogawa	「Diversification Strategies of“Self”and Informality」	2023年6月	埼玉大学人文社会科学研究科，国際ワークショップ Asian Urbanism and Urban Informality，埼玉大学	
29	Sayaka Ogawa	「Session III : Panel Discussion Informality as a cornerstone of rapid and equitable development in Africa」	2023年	Kobe University Research Institute for Economics and Business Administration, Kobe-Duke Symposium on African Economic Development，神戸大学	
30	Sayaka Ogawa	「Multimodal Anthropology Using Serious Games: Toward a Collaboration of Business, Education, and Anthropology」	2024年1月	東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ，アカデミックリサーチと芸術の未来／シンポジウム	
31	シン・ジュヒョン，小川さやか	「災害・危機に対するレジリエンス強化のためのシリアスゲームの可能性と課題」	2023年11月	立命館大学環太平洋文明研究センター，R-GIRO 公開シンポジウム「学際的視点から人類のレジリエンスを捉え直す」,京都市下京区・京都リサーチパーク	
32	小川さやか	「パネルディスカッション」	2023年11月	神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート拠点,人口減社会における越境・家族・国家」シンポジウム「日本を選ぶ（残る）理由　日本を選ばない（去る）理由」,神戸市灘区・神戸大学	
33	小川さやか	「発表 1-4 に対するコメント」	2023年12月	日本文化人類学会，日本文化人類学会 次世代育成セミナー，小平市・東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所	
34	小川さやか	「パネルディスカッション」	2023年12月	比較考古学研究会,『万物の黎明』公刊記念シンポジウム(2023 年度 第 1 回 比較考古学研究会),オンライン開催	
35	小川さやか	「コメント:SNSは移動と空間をどのように変えるのか:バングラデシュのヒジャビ・ライダーの事例から」	2024年2月	神戸大学国際文化学研究推進インスティテュート拠点,テクノロジーとモビリティの拡張による距離と境界の再構築:空間・身体・イデオロギー　ワークショップ，神戸市灘区・神戸大学	
36	後藤智	「今企業が潜在的に人文社会科学の方法論を求めている(けど気付いてない)」	2024年3月	GPSP「異分野融合創出に向けた研究者交流プラットフォーム構築」,プロジェクト成果報告会,京都市北区・立命館大学衣笠キャンパス	
37	Satoru Goto	「Development of a scale for measuring design orientation」	2023年6月	European Institute for Advanced Studies inManagement, Innovation and Product DevelopmentManagement 2023, Politechnico di Milano	Takuo Ando, Takuya Nomura
38	Satoru Goto	「The Downside of Organizational Identificationon Design Thinking: Problem Finding, Problem Solution, and Solution Implementation」	2023年6月	European Institute for Advanced Studies inManagement, Innovation and Product DevelopmentManagement 2023, Politechnico di Milano	Hikaru Makino, Takuo Ando, Kazaru Yaegashi
39	後藤智	「今企業が潜在的に人文社会科学の方法論を求めている(けど気付いてない)」	2024年3月	GPSP「異分野融合創出に向けた研究者交流プラットフォーム構築」,プロジェクト成果報告会,京都市北区・立命館大学衣笠キャンパス	
40	Mima, T.	The Personal can be	2023年8月	Symposium: New horizon of Hyper-	

		Scientific: N-of-1 app.roach to hyper-adaptability.The 46th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Symposium: New horizon of Hyper-Adaptability		Adaptability 1st Aug., Sendai, Japan.	
41	美馬達哉	ポスト・トゥルースとアグノトロジー（無知学），「今日の思想状況としてのポスト・トゥルース研究とその批判的応答」（2023 年度大阪大学学際融合を推進し社会実装を担う次世代挑戦的研究者育成プロジェクト共同研究採択）	2024 年 2 月	大阪大学吹田キャンパス	
42	姫野友紀子	大動脈解離再発リスク推定精度向上のための血管拡張因子分布の推定	2023/05/19	第 62 回生体医工学会大会,名古屋（2023/05/18 ～ 2023/05/20）ポスター発表	澤村将太，姫野友紀子，鷹羽浄顕，天野晃
43	姫野友紀子	Na/Ca 交換体(NCX)数理モデルにおけるイオン結合解離プロセスの電位依存性および反応速度定数に関する熱力学的制約の検討	2023/05/19	第 62 回生体医工学会大会,名古屋（2023/05/18 ～ 2023/05/20）ポスター発表	Ou Shaocong, Xiao Zhangyang，大山渓花，古川雅郎，Muangkram Yuttamol，姫野友紀子，天野晃
44	姫野友紀子	A significant decline in evergy expenditure due to increased light intensities maintaining ion homeostasis in rod photoreceptor	2023/05/19	第 62 回生体医工学会大会,名古屋（2023/05/18 ～ 2023/05/20）ポスター発表	Yuttamol Muangkram, Yukiko Himeno, Akira Amano
45	姫野友紀子	Quantifying the Energy Demand and Supp.ly in Photoreceptor using a Comprehensive Mathematical Model	2023/07/24	45th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society,シドニー（2023/07/24 ～ 2023/07/27）ポスター発表	共同
46	姫野友紀子	Propagation of repolarization in human ventricle revealed in a one-dimensional array of cardiomyocyte model	2023/11/01	The 10th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congress,Daegu,大韓民国（2023/11/01 ～ 2023/11/04）ポスター発表	Yukiko Himeno, Suzuka Enomoto, Hiroto Nomura, Yixin Zhang, Yuttamol Muangkram, Akinori Noma, Akira Amano
47	姫野友紀子	Photoreceptor ion flux profiles and ion homeostasis in a comprehensive mathematical model	2023/11/01	The 10th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congress,Daegu,大韓民国（2023/11/01 ～ 2023/11/04）ポスター発表	Yuttamol Muangkram, Yukiko Himeno, Akira Amano
48	姫野友紀子	Development of parameter optimization method to predict composition of ionic channel currents of cardiomyocyte with selective channel-blockade	2023/11/01	The 10th Federation of the Asian and Oceanian Physiological Societies Congress,Daegu,大韓民国（2023/11/01 ～ 2023/11/04）ポスター発表	共同
49	姫野友紀子	心室筋細胞で活性化する ATP 感受性 K+(KATP)チャネルの制御因子	2023/11/11	第 115 回近畿生理学談話会,大阪	ZHANG WENLI、姫野友紀子、竹内綾子、野間昭典、天野晃
50	姫野友紀子	IKr チャネルが選択的に阻害されたヒト iPS 細胞由来分化心筋細胞（hiPS-CM）のイオン電流組成を予測するパラメーター最適化法の開発	2023/11/11	第 115 回近畿生理学談話会,大阪	張 芸馨、姫野 友紀子、豊田太、野間 昭典、天野 晃
51	姫野友紀子	Generating the Photoreceptor Components of Electroretinograms Using a Rod Membrane Current Cable Model	2023/11/11	第 115 回近畿生理学談話会,大阪	Shaocong Ou 、Kouta Hori 、Yuttamol Muangkram 、Yukiko Himeno 、Akira Amano

52	姫野友紀子	E-4031 の心室筋細胞への薬理作用を再現する PK/PD モデルの自動パラメータ最適化手法適用による改良	2023/11/11	第 115 回近畿生理学談話会,大阪	佐下橋杏実、野村裕斗、張芸馨、姫野友紀子、中瀬古(泉)寛子、天野晃
53	姫野友紀子	An integrative mathematical framework for quantifying energy consumption in alignment with the three primary energy production pathways in photoreceptors	2023/11/11	第 115 回近畿生理学談話会,大阪	Yuttamol Muangkram , Yukiko Himeno , Akira Aman
54	姫野友紀子	Reconstruction of Transretinal Extracellular Current by using Mathematical Model of Rod 1D Cable	2024/03/29	日本生理学会 第 101 回大会,日本生理学会,福岡(2024/03/28 ～ 2024/03/30)ポスター発表	OU Shaocong, Keika Oyama, Masaaki Furukawa, Yuttamol Muangkram, Yukiko Himeno, Akira Amano
55	姫野友紀子	Contribution of KATP channels activated in ventricular myocytes to repolarization: a simulation study	2024/03/29	日本生理学会 第 101 回大会,日本生理学会,福岡(2024/03/28 ～ 2024/03/30)ポスター発表	Yukiko Himeno, Hiroto Nomura, Wenli Zhang, Yixin Zhang, Yuttamol Muangkram, Ayako Takeuchi, Akinori Noma and Akira Amano
56	後藤基行	優生保護法下における強制不妊手術の審査体制と議論	2023 年 5 月 28 日	日本科学史学会 2023 年度総会・第 70 回年会(シンポジウム「強制不妊手術関連公文書のアーカイブ構築に向けて」)	
57	後藤基行	神奈川県における旧優生保護法の運用実態 －県立公文書館所蔵資料の分析－	2023 年 6 月 23 日	第 119 回日本精神神経学会学術総会(委員会シンポジウム「旧優生保護法における精神科医の果たした役割についての学際的検討」)	
58	後藤基行	医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史研究はどのように可能か？―アーカイブズの可能性	2023 年 8 月 2 日	神戸大学生命・自然科学 ELSI 研究プロジェクト 発足記念イベント	
59	後藤基行	日本の精神科入院の歴史構造と「社会福祉」的入院―貧困と家族、アーカイブズ―	2023 年 9 月 4 日	全国精神保健福祉センター長会データ分析・地域分析検討委員会	
60	後藤基行	優生保護法下における強制不妊手術―申請と審査手続き―	2023 年 10 月 8 日	『アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究』科研費研究会:「歴史と史料の中の優生学:日本と韓国のケースより」(Eugenics in History and Sources: From the Cases of Japan and South Korea)	
61	後藤基行	医療や福祉に関する記録・史資料はなぜ保存されるべきなのか？ ―保管と利活用の在り方の検討―	2024 年 3 月 2 日	第 22 回(2023 年度)やどかり研究所報告・交流集会	
62	後藤基行	なぜ日本では精神科病院は「生存」の場であることをやめられないのか ―精神医療史研究の立場から―	2024 年 3 月 23 日	精神保健従事者団体懇談会 第 8 回精神保健フォーラム	
63	後藤基行	精神衛生法と強制入院	2024 年 3 月 24 日	立命館大学 JST/RISTEX プロジェクト【患者・市民参画型ワークショップ】「医科学の歴史における ELSI―精神科医療の強制入院に関わる一次資料の検討」	
64	後藤基行	「医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史研究とアーカイブズ構築」プロジェクト紹介とワークショップ概要	2024 年 3 月 24 日	立命館大学 JST/RISTEX プロジェクト【患者・市民参画型ワークショップ】「医科学の歴史における ELSI―精神科医療の強制入院に関わる一次資料の検討」	
65	富永京子	1970-1980 年代若者文化における「戦争語り」の変遷:雑誌『ビックリハウス』を事例として	2023/04/22	第 14 回戦争社会学研究会大会、口頭(一般)	

66	富永京子	Activist Tourism as a Process of Prefiguration Development: The Case of Tourism at the World Conferences of Women, 1975-1985	2023/06/09	Mobilization Conference	
67	富永京子	Prefiguration performed by 'pretend' squatting: The case of the self-build community engaged by activists	2023/06/14	AFPP. 2023 Conference	
68	富永京子	Housing, Working, and Networking with Neighborhoods: Constructing Autonomy and Reconstructing Community by Ex-Activists Youth	2023/08/21	APSA ASIA Workshop	
69	松原　洋子	日本における強制不妊手術関連公文書アーカイブ構築の意義と課題」(シンポジウム「強制不妊手術関連公文書のアーカイブ構築に向けて」	2023/05/28	日本科学史学会第 70 回年会	
70	Satoru Goto	Development of a scale for measuring design orientation	2023/06/08	Innovation and Product Development Management 2023	Takuo Ando, Takuya Nomura and Satoru Goto
71	Satoru Goto	The Downside of Organizational Identification on Design Thinking: Problem Finding, Problem Solution, and Solution Implementation	2023/06/09	Innovation and Product Development Management 2023	Satoru Goto, Hikaru Makino, Takuo Ando and Kazaru Yaegashi
72	Satoru Goto	Proposed Need for Organizational Culture for Design Thinking Education	2023/09/19	24th CINet Conference	Ruri Hayashi and Satoru Goto
73	サトウタツヤ	震災復興支援におけるボランティア活動の長期継続方法とは	2023 年 6 月	第 2 回 TEA と質的探究学会	秋口楓
74	中村正	ハイリスク・ストーカーへの法と臨床-新たな視点の展開-	2023 年 9 月 23 日	第 61 回日本犯罪心理学会大会	指宿信、後藤弘子ほか
75	松尾　匡	流動性のわな再々考――「貨幣を出してもそのまま持たれる」の系譜	2023/06/24	ポスト・ケインズ派経済学研究会(経済動学ワークショップとの共催)	
76	村本　邦子	心理学者はコロナとどう向き合うか？パート2	2023/09/15	日本心理学会第 87 回大会	
77	村本　邦子	「土地の力」を描き出す―映画によるビジュアル・エスノグラフィー―	2023/11/04	日本質的心理学会第 20 回大会	
78	村本　邦子	土着心理学とその展開	2023/11/05	日本質的心理学会第 20 回大会	
79	村本　邦子	多様で持続可能な対人援助に必要な「知」に関する一考察	2023/11/11	対人援助学会第 15 回大会	
80	望月　茂徳	Immersive Tales: 映像投影を用いた絵本とその読書体験の拡張	2023/08/31	エンタテインメントコンピューティング 2023	北山 玲奈, 望月 茂徳, 大島 登志一
81	Shigenori Mochizuki	Augmentation of Medical Preparation for Children by Using Projective and Tangible Interface	2023/12/13	SIGGRAPH Asia 2023	Miki Monzen, Shigenori Mochizuki, Toshikazu Ohshima
82	望月　茂徳	多様な特性を考慮したインクルーシブな映像インスタレーションの制作	2024/03/07	INTERACTION 2024 第 28 回 一般社団法人情報処理学会シンポジウム	中濱 佑太, 門前 美樹, 望月 茂徳

83	安田裕子	オンラインコメントセッション Group3	2023/06/10	TEA と質的探究学会第 2 回大会	
84	安田裕子	脳卒中後遺症者の長期的療養生活の変容プロセスとその支援―「手紙を書く」行為による内省を踏まえて	2023/06/11	TEA と質的探究学会第 2 回大会	横山直子・安田裕子
85	安田裕子	シンガポール日本語教師会での TEA 講習会―参加者・講習実施者それぞれの視点から	2023/06/11	TEA と質的探究学会第 2 回大会	中田友貴・ウォーカー泉・安田裕子・サトウタツヤ
86	安田裕子	TEA のいろは―TEM の基礎を学ぼう	2023/06/11	TEA と質的探究学会第 2 回大会	
87	安田裕子	複線径路等至性アプローチ（Trajectory Equifinality App.roach: TEA）―応用編	2023/09	日本心理学会第 87 回大会	サトウタツヤ・安田裕子
89	安田裕子	複線径路等至性アプローチ（Trajectory Equifinality App.roach: TEA）―基礎編	2023/09/15	日本心理学会第 87 回大会	安田裕子・サトウタツヤ
90	安田裕子	TEA 活用による顧客インサイト抽出の可能性	2023/10/29	日本マーケティング学会第 12 回マーケティングカンファレンス 2023	小菅竜介・安田裕子・高橋歩
91	安田裕子	複線径路等至性アプローチ（TEA）における分岐点概念の再考	2023/11/04	日本質的心理学会第 20 回大会	小山多三代・土元哲平・安田裕子
92	安田裕子	子育て環境としての日本・アジアのイメージ―育児期女性の語りから	2023/11/05	日本質的心理学会第 20 回大会	三品拓人・鶴原美佑・小林藍・安田裕子
93	安田裕子	食肉目の捕殺に反対する個人は村の中で捕殺反対の規範を普及する始点となりうるか？―バングラデシュ北東部のスナドリネコ保全の事例	2023/12/02	「野生生物と社会」学会第 28 回大会・つくば大会	鈴木愛・安田裕子・桜井良
94	岩田　京子	「障害者の足を奪い返す会」を組織した猪野千代子の歴史を辿る	2023/10	障害学国際セミナー 2023	川端美季、岩田京子
95	栗川治	障害者運動の当事者性と体制化――1920 年代の日本盲教育同志倶楽部、日本聾唖教員協会の結成と挫折	2023 年 9 月 16 日	障害学会第 20 回大会	
96	栗川治	日本の点字図書館運動勃興期における「情報を一人一人に届ける」取り組み――新潟県立図書館と新潟県盲人協会点字巡回文庫の実践の歴史的意味	2023 年 10 月	障害学国際セミナー2023	
97	栗川治	視覚障がいからみる身体の可能性	2023 年 7 月 23 日	柳都会（Noism対談企画） vol.27	
98	栗川治	障害教員の闘争が切り拓くユニバーサルな学びの可能性	2023 年 12 月 16 日	東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター公開シンポジウム「身体（からだ）の声に耳を傾けて――学校・博物館におけるユニバーサルな学びの可能性」	
99	中井 良平	Technical Aspects of Information Accessibility During the COVID-19 Pandemic: Initiatives at the Institute of Ars Vivendi	2023/10/28	障害学国際セミナー2023	中井 良平・橋口 昌治・安田 智博
100	中井 良平	Accessibility and Changes in Graduate Studies During COVID-19: A Student's Viewpoint, Inspired by Professor Shinya Tateiwa	2023/10/27-28	障害学国際セミナー2023	
101	柴垣　登	「戦後肢体不自由教育における実践課題の変遷とその	2023 年 8 月	日本特殊教育学会第 61 回大会（横浜国立大学）	なし

		背景 －日本肢体不自由教育研究会の機関誌『肢体不自由教育』の特集テーマの分析による考察－」			
102	駒澤真由美	「自著を語る～MY FIRST BOOK～『精神障害を生きる――就労を通して見た当事者の「生の実践」』(生活書院、2022 年)」	2023 年 5 月	関西社会学会 第 74 回大会	
103	駒澤真由美	「精神障害当事者にとって『就労継続支援 B 型』とはどのような場なのか」	2023 年 6 月	日本精神保健福祉学会 第 11 回全国学術研究集会	
104	駒澤真由美	「ライフストーリーからフィールドワークへ、そしてオートエスノグラフィ―へ」	2023 年 11 月	日本質的心理学会 第 20 回大会	
105	駒澤真由美	｢「ライフストーリーとオートエスノグラフィとの関係」	2023 年 12 月	第 1 回 オートエスノグラフィ―と詩的探求フォーラム	
106	仲尾謙二	アクセシビリティと法律 あるいは鉄道やバスが民営であるということ	2024 年 3 月	シンポジウム「アクセシビリティと“？？” ―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」、立命館大学朱雀キャンパス	
107	仲尾謙二	障害を持つ大学院生に対する研究支援 ～その課題と可能性～	2023 年 9 月	AHEAD JAPAN 第 9 回全国大会、立命館大学茨木キャンパス	
108	仲尾謙二	本居宣長と京都～『在京日記』を読む～	2023 年 9 月	「令和 5 年度 宣長十講」、本居宣長記念館（公益財団法人鈴屋遺蹟保存会）	
109	藤原良太	意味的な排除／包摂の揺らぎを観察する――生活世界に注目して	2023 年 9 月	障害学会第 20 回大会	
110	野口友康	「犠牲のシステム」としての予防接種施策―予防接種健康被害救済制度の課題	2023 年 6 月	関東社会学会第 71 回大会	
111	野口友康	「犠牲のシステム」としての予防接種施策―予防接種健康被害救済制度の課題	2023 年 6 月	総合人間学会第 17 回大会	
112	野口友康	予防接種健康被害救済制度の課題と 実効性―新型コロナ感染症(COVID-19)ワクチン禍に注目して―	2023 年 9 月	障害学会第 20 回大会	
113	野口友康	「犠牲のシステム」としての予防接種施策―予防接種健康被害救済制度の課題	2023 年 10 月	日本社会学会第 96 回大会	
114	横田陽子	感染症サーベイランスの起源	2023 年 5 月	日本科学史学会第 70 回年会	
115	横田陽子	感染症サーベイランス小史 ーーサーベイランスはどのように定着したか	2023 年 12 月	2023 年度生物学史分科会総会	
116	柴垣 登	「戦後肢体不自由教育における実践課題の変遷とその背景 －日本肢体不自由教育研究会の機関誌『肢体不自由教育』の特集テーマの分析による考察－」	2023 年 8 月	日本特殊教育学会第 61 回大会（横浜国立大学）	なし
117	駒澤真由美	「自著を語る～MY FIRST BOOK～『精神障害を生きる――就労を通して見た当事者の「生の実践」』(生活書院、2022 年)」	2023 年 5 月	関西社会学会 第 74 回大会	
118	駒澤真由美	「精神障害当事者にとって『就労継続支援 B 型』とはどのような場なのか」	2023 年 6 月	日本精神保健福祉学会 第 11 回全国学術研究集会	
119	駒澤真由美	「ライフストーリーからフィールドワークへ、そしてオートエスノグラフィ―へ」	2023 年 11 月	日本質的心理学会 第 20 回大会	

120	駒澤真由美	「「ライフストーリーとオートエスノグラフィとの関係」	2023 年 12 月	第 1 回 オートエスノグラフィ―と詩的探求フォーラム	
121	仲尾謙二	アクセシビリティと法律 あるいは鉄道やバスが民営であるということ	2024 年 3 月	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」、立命館大学朱雀キャンパス	
122	仲尾謙二	障害を持つ大学院生に対する研究支援 ～その課題と可能性～	2023 年 9 月	AHEAD JAPAN 第 9 回全国大会、立命館大学茨木キャンパス	
123	仲尾謙二	本居宣長と京都～『在京日記』を読む～	2023 年 9 月	「令和 5 年度 宣長十講」、本居宣長記念館（公益財団法人鈴屋遺蹟保存会）	
124	藤原良太	意味的な排除／包摂の揺らぎを観察する――生活世界に注目して	2023 年 9 月	障害学会第 20 回大会	
125	野口友康	「犠牲のシステム」としての予防接種施策―予防接種健康被害救済制度の課題	2023 年 6 月	関東社会学会第 71 回大会	
126	野口友康	「犠牲のシステム」としての予防接種施策―予防接種健康被害救済制度の課題	2023 年 6 月	総合人間学会第 17 回大会	
127	野口友康	予防接種健康被害救済制度の課題と 実効性―新型コロナ感染症(COVID-19)ワクチン禍に注目して―	2023 年 9 月	障害学会第 20 回大会	
128	野口友康	「犠牲のシステム」としての予防接種施策―予防接種健康被害救済制度の課題	2023 年 10 月	日本社会学会第 96 回大会	
129	横田陽子	感染症サーベイランスの起源	2023 年 5 月	日本科学史学会第 70 回年会	
130	横田陽子	感染症サーベイランス小史――サーベイランスはどのように定着したか	2023 年 12 月	2023 年度生物学史分科会総会	

4.主催したシンポジウム・研究会等

No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	第 19 回水俣病記念講演会	朱雀キャンパス	2023 年 4 月 29 日	約 150 名	主催：水俣フォーラム、立命館大学生存学研究所 後援：京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社・京都新聞社・共同通信社・NHK 京都放送局・MBS テレビ・KBS 京都・朝日放送テレビ・読売テレビ
2	立命館大学土曜講座	衣笠キャンパス	2023 年 4 月 8 日・15 日	約 40 名	土曜講座事務局
3	アンハラッド・ベケット教授研究会	朱雀キャンパス多目的室 1・2	2023 年 11 月 27 日	約 30 名	人間研共催
4	シンポジウム「アクセシビリティと“？？”―生活・空間・モノ・社会デザイン、そして実践から考える―」	朱雀キャンパス	2024 年 3 月 20 日	約 30 名	
5	「介助付き就労学習会」	都道府県会館／Zoom のハイブリッド形式	2023 年 9 月	現地・オンライン計 216 名	助成団体：トヨタ財団（2021 研究助成プログラム） 後援団体：認定 NPO 法人 DPI 日本会議・NPO 法人日本障害者協議会・NPO 法人障害平等研修フォーラム・NPO 法人境を越えて・NPO 法人 ALS/MND サポートセンターさくら会・一

					般社団法人全国障害学生支援センター

5.その他研究活動(報道発表や講演会等)				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	大谷いづみ，川端美季	クイズ#ふつうアップデート 大学 SP(2)	NHK バリバラ	2023 年 10 月 6 日(放送)
2	伊東香純	当事者でない人によるボランティア	立命館大学サービスラーニングセンター	2024 年 2 月
3	Mima, T	The Personal can be Scientific: N-of-1 approach to hyper-adaptability	The 46th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Symposium: New horizon of Hyper-Adaptability	1st Aug., 2023. Sendai, Japan.
4	美馬達哉	オルトレキシアを流行らせたい一食と健康の社会学の視点から一	第 49 回保健医療社会学会＠東京都立大学荒川キャンパス	2023 年 5 月 27 日
5	美馬達哉	ピアと医療専門家の関わり――医療社会学の視点――	第 4 回 ピアサポート研究会＠東京保険医協会セミナールーム	2023 年 11 月 3 日
6	美馬達哉	脳神経科学の発達が近未来社会に与える影響	第 7 期 THE TEAM 講演、三谷産業東京本社	2023 年 11 月 11 日
7	美馬達哉	tSMS の臨床応用への Feasibility	シンポジウム 9 静磁場刺激クロニクル ー在宅リハビリ応用への挑戦ー、第 53 回日本臨床神経生理学会学術大会＠福岡国際会議場、	2023 年 12 月 1 日
8	美馬達哉	ポスト・トゥルースとアグノトロジー(無知学)	「今日の思想状況としてのポスト・トゥルース研究とその批判的応答」(2023 年度大阪大学学際融合を推進し社会実装を担う次世代挑戦的研究者育成プロジェクト共同研究採択)、大阪大学吹田キャンパス	2024 年 2 月 10 日
9	美馬達哉	経頭蓋的磁気刺激法(TMS)の原理と展望	講演会、久里浜医療センター講義室	2024 年 3 月 5 日
10	長瀬修	視覚障害ナビラジオ	NHK ラジオ第 2 放送	2024 年 3 月 31 日(放送)
11	小川さやか	「時間をあたえあう―タンザニアの零細商人の贈与論」	2023 年度春学期東京大学東アジア藝文書院学術フロンティア講義，東京都文京区・東アジア藝文書院	2023 年 4 月
12	小川さやか	「これからの幸せ」	浄土宗開宗 850 年記念・法然フォーラム in 仙台，仙台市青葉区・電力ホール	2023 年 5 月
13	小川さやか	「新しい未来を切り拓く想像力のタネ」	静岡学園中学校・高等学校第 58 回 開校記念式及び記念講演，静岡市葵区・静岡市民文化会館	2023 年 5 月
14	小川さやか	「(第 1 回)笑いに満ち溢れた世界―窮地に陥った時の人間行為と笑い―」	演奏藝術センターカリキュラム(オムニバス授業)「オムニバス講座 先端知を識る」，東京都台東区・東京藝術大学	2023 年 6 月
15	小川さやか	「((第 2 回)時間をあたえあう―タンザニアの零細商人の贈与論―」	演奏藝術センターカリキュラム(オムニバス授業)「オムニバス講座 先端知を識る」，東京都台東区・東京藝術大学	2023 年 6 月
16	後藤智	「デザインマネジメントとインクルージョン」	【SDGs を考える】，オンライン開催，京都市中京区・立命館大学朱雀キャンパス	2023 年 7 月
17	後藤智	「別府デザイン思考フィールドワーク」	立命館大学 EDGE＋Rプログラム，別府市・立命館アジア太平洋大学	2023 年 8 月
18	後藤智	「2023 年度 EDGE+R プログラム メタバースコース」	立命館大学 EDGE+R プログラム，オンライン，茨木市・立命館大学大阪いばらきキャンパス	2023 年 9 月
19	小川さやか	「書評 今週の必読・『食客論』星野太」	『週刊文春』第 65 巻第 13 号	2023 年 4 月
20	小川さやか	「人事のアカデミア 第 19 講 その日暮らしの人類学」	『RECRUIT Works』第 29 巻第 1 号， WEB 版: https://www.works-i.com/works/series/academia/detail019.html	2023 年 4 月
21	小川さやか	「UX のタテヨコナナメ vol.2 文化人類学者の小川さやかさ	『スローメディア「TD」編集部』，https://www.td-media.net/interview/ux-tateyokonaname-vol2-ogawa-sayaka/	2023 年 4 月

		んに聞いてみた」		
22	小川さやか	「読書／独自世界観もつ言語の研究（書評）『ムラブリ』伊藤雄馬」	『日本経済新聞』30 面	2023 年 4 月
23	小川さやか	「文化人類学者と考える「豊かさ」と「今」」	WEEKLY OCHIAI（オンライン番組）	2023 年 5 月
24	小川さやか	「釈徹宗のだから世間は面白い NO.124」	フォーレ』2023 年 6 月号	2023 年 6 月
25	小川さやか	「2023 年上半期の収穫から・44 人へのアンケート―印象に残った三冊／村津蘭『ギニア湾の悪魔』、里見龍樹『不穏な熱帯』、酒井隆史『賢人と奴隷とバカ』」	『週刊読書人』第 3499 号	2023 年 7 月
26	小川さやか	「【前編】タンザニアの商人が遅刻を悪びれない合理的な理由」	『メディア「うにくえ」』 https://unique.kaonavi.jp/1962/	2023 年 8 月
27	小川さやか	「【後編】2 万円貸してくれる親友と200 円くれる友だち。安心するのは？」	『メディア「うにくえ」』 https://unique.kaonavi.jp/1970/	2023 年 8 月
28	小川さやか	「《多思彩々》理解から「共にいる」へ転換」	信濃毎日新聞 4 面	2023 年 10 月
29	小川さやか	「《多思彩々》現代的な形の「アジール」を」	信濃毎日新聞 3 面	2024 年 1 月
30	小川さやか	「無条件の条件－文化人類学における「他者」理解をめぐって」	青天白雲塾，東京都千代田区・ステーションコンファレンス	2023 年 10 月
31	小川さやか	「デザインリサーチ入門＆手法② エスノグラフィー・プロトタイピング」	デザインリサーチの方法論－ビジネスにインパクトを与える人文社会科学,京都市中京区・立命館朱雀キャンパス	2024 年 2 月
32	小川さやか	「ままならない社会を楽しむ」	ルッチまちづくり大学,米原市・米原市役所本庁舎	2023 年 12 月
33	小川さやか	「市場経済と贈与経済を横断する－タンザニアのデジタル・インフォーマル経済－」	日本生産性本部 次世代経営人材育成プログラム，宇都宮市・足利銀行研修センター	2024 年 1 月
34	小川さやか	「「その日暮し」から見える社会的共通資本～インフォーマル経済から考えるコモンズ」	宇沢弘文を読む会，東京都渋谷区・代官山ヒルサイドテラス	2024 年 1 月
35	小川さやか	「パネリスト：現代人の『生きづらさ』の本質とは」	ディスカッション「歴史から学ぶ－この地球的危機に人類はどう立ち向かうべきか？」，地球危機の時代に、どう挑むべきか－異分野をつなぐ「総合知」を目指して，京都市下京区・立命館朱雀キャンパス	2024 年 1 月
36	後藤智，中村大	「デザインリサーチ入門＆手法① デザインリサーチと考古学」	鈴木信太郎 デザインリサーチの方法論－ビジネスにインパクトを与える人文社会科学,京都市中京区・立命館朱雀キャンパス	2024 年 1 月
37	後藤智	「次世代・未来の学びトークセッション～メタバース×教育の事例から～」	坂井冬樹，冨岡奈津代,水瀬ゆず 第 15 回 OIC CONNÉCT,茨木市・立命館いばらきキャンパス	2023 年 11 月
38	小川さやか	「【特別対談】タンザニアを見れば、日本の未来が見えてくる～資本主義、SNS、人付き合い（柴山桂太×小川さやか）」	『表現者クライテリオン』番組出演（Youtube）	2023 年 10 月
39	小川さやか	「インタビュー 文化人類学者・小川さやかさんから学ぶ、「真の多様性」に近づくヒント」	F.I.N.（FUTURE IS NOW） https://fin.miraiteiban.jp/shin_no_tayousei/,未来定番研究所（株式会社 大丸松坂屋百貨店）	2023 年 11 月
40	小川さやか	「学びの世界を探る ハカセの謎を追え！第4回 小川さやかさん」	『ETHICS for YOUTH』No.4 Winter2023-2024，一般社団法人実践倫理宏正会, pp.28-29	2023 年 12 月
41	小川さやか	「異文化は理解できない」	VOOX 番組出演（音声メディア）https://www.voox.me	2024 年 3 月

42	シン・ジュヒョン	「書評　ユンテェジン・キムジユン著『女性ゲーマーは銃を撃つことができるだろうか』」	『Game Generation』【ウェブ掲載】	2023 年 10 月
43	川端美季	関東大震災と植民地統治下の公衆浴場	植民地文化学会フォーラム「100年目の関東大震災」	2023 年 7 月
44	川端美季	Bathing and National Morality in Modern Japan	Mid-Atlantic Regional Association for Asian Studies 49th Annual Conference	2023 年 10 月
45	川端美季	公衆浴場を必要としたのは誰か：入浴と清潔をめぐる近代史	日本科学史学会生物学史分科会シンポジウム	2023 年 12 月
46	後藤基行	書評　末田邦子著『戦前日本における精神衛生相談の成立―理念形成から活動の展開まで』	図書新聞（第 3624 号）	2024 年 1 月
47	後藤基行	優生保護法下における強制不妊手術の審査体制と議論―シンポジウム 強制不妊手術関連公文書のアーカイブ構築に向けて	科学史研究.[第Ⅲ期] = Journal of history of science, Japan.[Series Ⅲ] / 日本科学史学会 編 (308)	2024 年 1 月
48	後藤基行	優生保護法の強制不妊手術に関わる 精神科医の役割－1962 年度神奈川県公文書の分析－	日本精神神経学会『優生保護法下における精神科医療及び精神科医の果たした役割に関する研究報告書』	2024 年 2 月
49	後藤基行 太田順一郎 岡崎伸郎 加藤春樹 佐藤眞弓 早苗麻子 竹島正 富田三樹生 中島直 中村江里 三野進	診療録を利用した研究の実現可能性の検討	日本精神神経学会『優生保護法下における精神科医療及び精神科医の果たした役割に関する研究報告書』	2024 年 2 月
50	後藤基行, 中村江里, 竹島正	優生手術への精神科医の関与 －学会員を対象とした質問紙調査－	日本精神神経学会『優生保護法下における精神科医療及び精神科医の果たした役割に関する研究報告書』	2024 年 2 月
51	中村江里, 後藤基行, 竹島正	優生手術への精神科医の関与 －学会員を対象としたインタビュー調査－	日本精神神経学会『優生保護法下における精神科医療及び精神科医の果たした役割に関する研究報告書』	2024 年 2 月
52	千葉　雅也	［対談］池上彰のそこからですか！？ 夏のスペシャル対談 いま哲学は必要ですか？	週刊文春 65(31)	2023 年 8 月
53	千葉　雅也	［対談］GPT と人間の欲望の形	文學界 77(8)	2023 年 8 月
54	千葉　雅也	坂本龍一、含羞の線	ユリイカ 55(16)	2023 年 12 月
54	千葉　雅也	解説、浅田彰『構造と力』中公文庫	中公文庫	2023 年 12 月
55	千葉　雅也	［対談］海の語源は感嘆の「う」なのか？ 「言語の本質」の謎に迫る	中央公論 137(12)	2023 年 12 月
56	千葉　雅也	［小説］幅が広い踏切	文學界 78(2)	2024 年 2 月
57	中村正	NHKBS プレミアムダークサイドミステリー「児童移民」	60 分番組の制作に協力。出演して解説も担当	2024 年 6 月 1 日
58	望月　茂徳	HAGOROMO 2023	BankArtStaion 横浜, UrbanGuild 京都（演奏会）	2023/09/24 ～ 2023/09/28

59	安田　裕子	「人生の意味」―人生の物語（ライフストーリー）の観点から	立命館大学（オンライン開催）、R-GIRO 記号創発システム論研究会「人生の意味」	2023/07/28
60	安田　裕子	『はじめて学ぶ 現場・当事者理解のための質的研究』	オンライン開催、心理職支援団体 MOSS 主催ワークショップ型セミナー	2023/09/10
61	安田　裕子	『はじめて学ぶ 現場・当事者理解のための質的研究』	オンライン開催、心理職支援団体 MOSS 主催ワークショップ型セミナー	2023/09/24
62	安田　裕子	質的研究法「複線径路等至性アプローチ（TEA）」	上智大学四谷キャンパス、上智大学 看護学専攻 FD 研修会	2024/02/28
63	安田　裕子	複線径路等至性アプローチ（TEA）の概説	大阪経済大学A館（70 周年記念館 フレアホール）、日本福祉大学質的研究会研修会	2024/03/02
64	安田　裕子	文化心理学から生まれた現象や経験のプロセスをとらえる質的研究手法 複線径路等至性アプローチ（TEA）の理論と実際を学ぶ	オンライン開催、一般社団法人日本地域看護学会 2023 年度研究活動推進委員会主催研究セミナー	2024/03/09
65	白杉 眞	重度訪問介護従業者養成研修、担当科目「重度肢体不自由者の地域生活」「介護概論」「外出介護支援技術演習」	NPO 法人ゆに主催、於：京都市生涯学習総合センター	2023/09/02-03
66	駒澤真由美	「パーソナルリカバリーに収まりきらない当事者の「生の実践」」	立命館大学大学院人間科学研究科　実践人間科学領域ゲストスピーチ，立命館大学大阪いばらきキャンパス（大阪府）	2023 年 5 月 15 日
67	駒澤真由美	「当事者の視点からリカバリーをとらえ直す」	京都精神保健福祉施設協議会 20 周年記念講演 講師， ひと・まち交流館京都（京都府）	2023 年 6 月 18 日
68	駒澤真由美	トークイベント「書店九のお話会」	社会福祉法人オリーブの会 理事長 勇川昌史さんとの対談，スウィングキッチン Your（京都府）	2023 年 12 月 23 日
69	駒澤真由美	「精神障害を生きる―― 就労を通して見た当事者の『生の実践』」	立命館大学生存学研究所　第 9 回生存学奨励賞 授賞講演，立命館大学衣笠キャンパス（京都府）	2024 年 1 月 31 日
70	駒澤真由美	「精神障害を生きる―― 就労を通して見た当事者の『生の実践』」合評会	立命館大学政策科学部　桜井政成ゼミ，立命館大学大阪いばらきキャンパス（大阪府）	2024 年 2 月 5 日
71	野口友康	ワクチン被害救済精度 迅速さ課題	朝日新聞　朝刊 22 面くらしコメント掲載	2023 年 11 月 22 日
72	野口友康	届かぬ救済 コロナワクチン接種後（下）	読売新聞 朝刊 25 面栃木地域	2024 年 2 月 6 日
73	佐藤零郎・村上潔	「「周縁-寄せ場-集合身体」――映画『月夜釜合戦』（佐藤零郎監督 2017 年／115 分）上映ならびに佐藤零郎（『月夜釜合戦』監督）×村上潔（女性史研究者・立命館大学生存学研究所客員研究員）のトーク」	キャンパスプラザ京都 4F 第 4 講義室	2023 年 5 月 28 日（日）17:00～21:00
74	藤岡 毅	警察活動と障害～安永健太さん事件から考える	東京 TS ネット主催セミナーVol.9	2023 年 6 月 18 日
75	藤岡 毅	障害者差別解消法に関する研修（キャラバン）	Zoom ミーティングによるオンライン開催	2023 年 6 月 21 日
76	藤岡 毅	障害者を取り巻く法的紛争の現状と裁判所に望むこと	司法研修所（令和 5 年度判事任官者研究会）	2023 年 7 月 11 日
77	藤岡 毅	私の弁護士業務の実践から	流通経済大学法学部	2023 年 10 月 3 日～4 日
78	藤岡 毅	障害者の権利	金沢大学法科大学院	2023 年 11 月 28 日
79	藤岡 毅	『いつもの帰り道で 安永健太さんの死が問いかけるもの』ドキュメンタリー映画　上映会とトーク	おおた TS ネット拡大定例会 vol.16	2023 年 12 月 9 日
90	藤岡 毅	「藤岡毅弁護士と介護保障のリーガルテラシーを上げよう！Think About２４時間介護保障」	土屋総研シンポジウム	2024 年 1 月 27 日
91	藤岡 毅	「障害年金 2025 年制度改革への障害年金法研究会から	厚生労働省中央合同庁舎 5 号館　本館 1 階	2024 年 3 月 6 日

		の提言書」の申し入れ		
92	藤岡　毅	2023 年 10 月 31 日千葉地裁「松戸市 ALS 介護保障訴訟」判決報告	日本弁護士連合会	2024 年 3 月 29 日

6.受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	鎮目　真人	福祉社会学会	第 7 回　福祉社会学会　学術賞	『年金制度の不人気改革はなぜ実現したのか:1980～2016 年改革のプロセス分析』ミネルヴァ書房、2021 年	2023/07/02
2	駒澤真由美	立命館大学生存学研究所	第 9 回生存学奨励賞	単著『精神障害を生きる――就労を通して見た当事者の「生の実践」』	2024 年 1 月
3	駒澤真由美	日本精神保健福祉学会	令和 5 年度学会賞（学術賞）	単著『精神障害を生きる――就労を通して見た当事者の「生の実践」』	2024 年 2 月
4	天畠大輔	日本社会福祉学会	2023 年度日本社会福祉学会学会賞奨励賞	『しゃべれない生き方とは何か』（生活書院、2022 年）	2023 年 10 月

7.科学研究費助成事業（科研費）

No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	立岩真也	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	代表
2	大谷　いづみ	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
3	大谷　いづみ	生命倫理学前史・成立史における安楽死論とキリスト教の相剋に関する米英日比較研究	基盤研究(C)	2019 年 4 月	2024 年 3 月	代表
4	伊東　香純	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
5	伊東　香純	精神障害者のグローバルな社会運動――アジア、アフリカ、南米に注目して	若手研究	2021 年 4 月	2026 年 3 月	代表
6	伊東　香純	アフリカにおける精神障害者のグローバルな草の根運動	特別研究員奨励費	2021 年 4 月	2024 年 3 月	代表
7	松原　洋子	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
8	富永　京子	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
9	後藤　基行	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
10	長瀬　修	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
11	美馬　達哉	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担

12	岸 政彦	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
13	姫野 友紀子	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
14	川端 美季	生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
15	川端 美季	近代日本における清潔規範の創出と展開	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2024 年 3 月	代表
16	川端 美季	パンデミックにおける人間と非人間：生政治と脱人間中心主義の視点から	学術変革領域研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
17	後藤 基行	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PP.I の実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	代表
18	川端 美季	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PP.I の実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
19	美馬 達哉	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PP.I の実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
20	松原 洋子	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PP.I の実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
21	川端 美季	日豪の薬物依存治療と薬物政策に関する比較研究	国際共同研究加速基金 (海外連携研究)	2023 年 9 月	2027 年 3 月	分担
22	美馬達哉	静磁場刺激を在宅ニューロリハに応用するために必要な基礎データの構築	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	分担
23	美馬達哉	脳卒中超回復者の脳再構成を静的・動的磁場で誘発される脳波変調で解明する	新学術領域研究(公募研究)	2022 年 4 月	2024 年 3 月	代表
24	美馬達哉	中枢－末梢チューニングによる感覚障害のオシロセラピューティクスの創出	挑戦的研究(萌芽)	2023 年 6 月	2025 年 3 月	代表
25	美馬達哉	神経筋メタ・ネットワーク構造に基づく歩行介入戦略の開発	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
26	美馬達哉	クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生	基盤研究(A)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
27	姫野友紀子	L 型 Ca チャネルのイオン透過機構と心臓ペースメーカー細胞の持続性内向き電流	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2024 年 3 月	分担
28	後藤 基行	20世紀日本の医療・社会・記録－医療アーカイブズから立ち上がる近代的患者像の探求	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2025 年 3 月	分担
29	富永京子	観光が浮かび上がらせる移動のポリティクスークリティカル・ツーリズムの視点から	挑戦的研究（萌芽）	2022 年 6 月	2025 年 3 月	分担
30	富永京子	社会的権利要求への冷笑・揶揄・攻撃をめぐる戦後若者史	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表
31	富永京子	「社会意識の分断」に着目した政治行動の計量的解明と新たな政治社会学モデルの構築	基盤研究(B)	2020 年 4 月	2024 年 3 月	分担

32	松原洋子	ゲノム編集や iPS 細胞等の先端医療技術や尊厳死等の問題を尊厳の毀損の観点から分析	学術変革領域研究(A)(計画研究)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	分担
33	松原洋子	アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2024 年 3 月	代表
34	桜井　政成	ボランティアの個人主義化と地域福祉:クリティカル・ボランティアリング概念の可能性	基盤研究(C)	2021 年 4 月	2024 年 3 月	代表
35	中村正	脱刑事罰処理を支える「治療法学」の確立に向けた学融的総合的研究	基盤研究(A)	2019 年 4 月	2024 年 3 月	分担
36	中村正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2019 年 4 月	2025 年 3 月	代表
37	松枝亜希子	薬害をめぐるコンフリクトと制度化:社会秩序形成過程にみる薬害の社会学	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2025 年 3 月	研究協力者
38	松枝亜希子	薬害資料データアーカイブズの基盤構築・活用に関する研究(21KC2008)	厚生労働省科研費			研究協力者
39	天畠大輔	「当事者事業所」という新たな生存保障システムの考察 ――福祉経営論の視点から	若手研究	2020 年 4 月	2025 年 3 月	代表
40	野口友康	日本の予防接種健康被害救済制度と諸外国の救済制度の比較	若手研究	2023 年 4 月	2028 年 3 月	代表
41	村上潔	「生を辿り途を探す――身体×社会アーカイブの構築」(研究課題番号:21H04406／研究代表者:立岩真也)	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2023 年 7 月	分担
42	瀬山紀子	アーカイブ構築に基づく優生保護法史研究	基盤研究(A)	2021 年 4 月	2024 年 3 月	分担
43	瀬山紀子	障害女性をめぐる差別構造および差別的状況についての横断的解明	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
44	瀬山紀子	公務非正規女性が支える専門職の持続可能性についての実証的研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	分担

8.科研費を除くすべての外部資金(政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	大谷いづみ	当事者視点による生命倫理教育・医療倫理教育に関する研究	公益財団法人生存科学研究所 2023 年度助成研究(540,000 円)	2023 年 4 月	2024 年 3 月	代表
2	後藤 基行	医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史的分析とアーカイブズ構築	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)社会技術研究開発センター(RISTEX) 科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題(ELSI)への包括的実践研究開発プログラム	2022 年 10 月	2026 年 3 月	代表
3	富永京子	郊外における若者移住者の空き家再利用による都市コミュニティ形成に関する研究	公益財団法人戸田育英財団・研究助成(500,000 円)	2023 年 8 月	2024 年 3 月	代表
4	富永京子	若者たちを孤立と不安定から救う方途としての職住同一型協同組合に関するアクション・リサーチ	公益財団法人ひと・健康・未来研究財団・研究助成(500,000 円)	2023 年 9 月	2024 年 8 月	代表
5	富永京子	空き家を活用した都市空間形成による住民間のセーフティネット構築	公益財団法人住友電工グループ社会貢献基金・学術・研究助成(750,000 円)	2023 年 10 月	2025 年 3 月	代表

6	サトウタツヤ	人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践	福島イノベーション・コースト構想推進機構が実施する「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」	2021 年 6 月	2026 年 3 月	代表
7	中村正	フォスタリングソーシャルワーカー養成講座	日本財団助成金	2019 年 4 月	2024 年 3 月	代表
8	中村正	令和 5 年度 DV 加害者更生プログラム及び支援員養成講座	京都府	2023 年 4 月	2025 年 3 月	代表
9	望月　茂徳	ボリュメトリック映像を活用した障害者芸術支援プラットフォーム	公益財団法人 放送文化基金 2022 年度助成	2023 年 4 月	2025 年 3 月	代表
10	一般社団法人わをん（天畠大輔）	「24 時間介助が必要な重度身体障がい者の就労にむけた実現戦略 ―介助付き就労を阻む社会システムの合理性を運動論から問いなおす」	トヨタ財団 2021 研究助成プログラム中間報告書「なにそれ！？　介助付き就労」 最終報告書「介助付き就労実態調査報告書」 特設サイト「なにそれ！？　介助付き就労」	2021 年 10 月	2023 年 9 月	前代表

9.知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	なし							